

# 作況ニュース（第3号）

水 稲

（発行：令和8年6月15日）（編集：令和8年6月11日）

発行：秋田県農林水産部

## 水 稲

### 生育の進みは早く、分けつの発生は順調

- －目標茎数を確保したら中干しを－
- －異常還元や藻類等による生育抑制に注意－

## 1 今後の気象の見通し

### (1) 東北地方1か月予報（6月13日～7月12日）【令和8年6月11日 仙台管区气象台発表】

#### <予想される向こう1か月の天候>

平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率50%です。

週別の気温は、1週目（6月13日～6月19日）は平年並か高い確率40%、2週目（6月20日～6月26日）は高い確率50%、3～4週目（6月27日～7月10日）は高い確率50%です。

- 次回の予報発表予定： 1か月予報 毎週木曜日14時30分  
3か月予報 6月23日(火) 14時

#### 【季節予報】

<https://www.jma-net.go.jp/sendai/data/tenkou/forecast/forecast.html>

#### 【2週間予報 毎日随時更新】

<https://www.data.jma.go.jp/cpd/twoweek/?fuk=32>

## 2 県内の概況

### (1) 天候の特徴

【秋田地方气象台】

5月下旬： この期間、天気は周期的に変化した。28日と30日は低気圧や気圧の谷の影響により、大雨の所があった。

旬平均気温は高いまたは平年並。旬降水量は概ね多い。かなり多い所もあった。旬間日照時間は概ね平年並または少ない。

6月上旬： この期間、前半は高気圧に覆われて晴れの日が多いが、後半は低気圧や前線により曇りや雨の日が多かった。旬平均気温は高いまたは平年並。旬降水量は概ね平年並または多い。旬間日照時間は少ないまたは平年並。

[旬統計値（秋田市）]

	気温 (℃)	平年差 (℃)	階級区分	降水量 (mm)	平年比 (%)	階級区分	日照時間 (hr)	平年比 (%)	階級区分
5月下旬	18.4	+1.5	高い	59.5	155	多い	72.4	101	平年並
6月上旬	19.7	+1.3	高い	25.5	108	平年並	64.6	94	平年並

(2) 本田の生育

1) 移植栽培

定点調査ほの移植日の平均は、「あきたこまち」が平年より1日遅い5月20日、「ひとめぼれ」が平年より2日遅い5月17日であった。各地域振興局による定点調査（6月10日）では、「あきたこまち」（64地点）は、草丈25.0cm（平年比99%）、㎡当たり茎数149本（同110%）、葉数6.3葉（平年差+0.3葉）であった。「ひとめぼれ」（8地点）は、草丈27.1cm（平年比98%）、㎡当たり茎数217本（同96%）、葉数6.6葉（平年差+0.1葉）であった。（表-1）

分けつの発生は順調に推移しており、「あきたこまち」は県北で平年比102%、中央で同134%、県南で同105%だった。この要因としては、移植後の高温多照により水温や地温が高く維持されたことが挙げられる。

表-1 定点調査結果（6月10日調査）

品種	地区	草丈			㎡当たり茎数			葉数		
		本年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (本)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (葉)	前年差 (葉)	平年差 (葉)
あきたこまち	県北	26.2	113	99	160	131	102	6.5	0.7	0.2
	中央	26.4	115	104	192	168	134	6.8	0.8	0.5
	県南	23.5	104	98	122	124	105	5.9	0.5	0.1
	<b>全県</b>	<b>25.0</b>	<b>109</b>	<b>99</b>	<b>149</b>	<b>137</b>	<b>110</b>	<b>6.3</b>	<b>0.7</b>	<b>0.3</b>
ひとめぼれ	中央	27.1	107	98	217	132	96	6.6	0.5	0.1

注) 平年値: H28~R7までの過去10年平均

農試の気象感応試験では、標植と晩植ともに草丈、茎数並びに葉数が平年を大きく上回り、生育は旺盛である（表-2）。本年は標植区の移植日（5月15日）以降、5月22~24日以外は低温期間がほとんどなく、気温がかなり高く経過したことから、水稻の生育は前進し、旺盛となった。

表-2 気象感応試験の生育状況（あきたこまち、6月10日調査）

試験区	移植日	草丈			㎡当たり茎数			葉数		
		本年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (本)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (葉)	前年差 (葉)	平年差 (葉)
標植	5月15日	28.6	115	108	301	214	134	7.5	+0.9	+0.5
晩植	5月25日	24.9	106	107	165	131	134	6.3	+0.6	+0.4

注) 平年値は、標植はH12~R7、晩植はH29~R7の平均。

## 2) 直播栽培

6月10日現在の全県5地点の生育概況は、平均で苗立率は68.3%、㎡当たり苗立数は117本（平年比121%）、草丈は18.9cm（同比122%）、㎡当たり茎数は214本（同比169%）、葉数は4.4葉（平年差+0.3葉）であった。㎡当たり苗立数が100本を超える地点がある一方、目標苗立数の下限に到達していない地点もあり、ほ場間差が大きくなった。葉数からみた生育は平年より早いため、㎡当たり茎数も多く、草丈も長い傾向であった。（表-3）

表-3 定点調査結果（湛水土中条播、あきたこまち、農試および農業振興普及課調査6月10日調査）

設置場所	播種月日 (月/日)	出芽率(%)		苗立率 (%)	㎡当たり苗立数			草丈			㎡当たり茎数			葉数		
		播種 10日後	播種 20日後		本年 (本)	前年 比 (%)	平年 比 (%)	本年 (cm)	前年 比 (%)	平年 比 (%)	本年 (本)	前年 比 (%)	平年 比 (%)	本年 (葉)	前年 差	平年 差
農試	5/11	77.0	87.5	87.5	138	299	170	19.8	134	115	285	551	257	4.4	+0.9	+0.4
大館市	5/11	58.2	83.0	83.0	172	261	165	18.6	166	111	276	418	211	4.0	+0.3	±0
井川町	5/7	57.6	59.4	48.4	91	112	88	25.1	204	168	248	246	158	4.6	+0.3	+0.2
美郷町	5/14	70.0	71.9	71.9	123	88	122	16.7	106	96	177	126	138	4.7	+0.3	+0.2
横手市	5/13	33.7	50.6	50.6	60	78	65	14.5	124	118	83	108	81	4.3	+0.5	+0.9
全県	5/11	59.3	70.5	68.3	117	142	121	18.9	147	122	214	290	169	4.4	+0.5	+0.3

注1) 平年値は、H28～R7の平均。

注2) 農試：出芽率・苗立率(%)=出芽数・苗立数/播種粒数(実測値)×100

注3) その他地点：出芽率・苗立率(%)=出芽数・苗立数/播種粒数(播種量からの推定)×100

## (3) 病害虫の発生概況

### 1) 斑点米カメムシ類

牧草地すくい取り調査(3地点)における越冬世代成虫の初確認日はアカヒゲホソミドリカスミカメが5月18日(平年5月24日)、アカスジカスミカメが5月29日(平年6月7日)でいずれも早かった。

予察灯調査(5地点)における5月6半旬までの総誘殺数は、アカヒゲホソミドリカスミカメが27頭(平年12.4頭)、アカスジカスミカメが10頭(平年0.6頭)でいずれも多かった。

### 3 当面の技術対策（6月中旬～下旬）

本年は5月22～24日はやや低温だったものの、5月上旬以降、概ね高温で経過しており、活着並びに初期生育は良好で、茎数の増加も順調なほ場は多い。一方で老化苗移植や低温、強風などの影響により初期生育が遅れているほ場もあり、ほ場間差が大きい。

また高温により藻類や表層はく離、ワキなども増加しており、ほ場の状況や生育状況に応じたきめ細かな栽培管理を徹底する。

今後も気温が高い予報であり、茎数の増加が遅れているほ場では、水管理を徹底し、茎数確保に努める。目標とする有効茎数確保後は、無効な分けつ発生を抑制するため、中干し又は深水処理を行う基本技術を徹底する。

さらに高温により斑点米カメムシ類の多発が懸念される点に留意し、病虫害及び雑草の防除を適期に実施する。

#### （1）水管理

移植の遅い、又は分けつ発生が少ないほ場では、浅水管理を徹底して分けつの発生を促進する。また、水温と地温を高めて日較差を大きくするため、かん水は水温の低い早朝に短時間で行う。中苗の移植栽培では第3号から第6号までの1次分けつ、直播栽培では第1号から第4号までの1次分けつを確保する。

特に本年の直播栽培においては、出芽が早く、苗立数も多く確保できているほ場が多い。㎡当たり苗立数が100本を超えるようなほ場では、上記の分けつを確保後、速やかに中干しに移行する。

高温により藻類、表層はく離及び土壌の異常還元が発生しやすい状況となっている。今後も高温が予想されることから還元しやすいほ場や既に異常還元しているほ場では、短期間の落水や水の入れ替えを行い、水稻生育への影響を低減する。

目標茎数を確保したら、中干しを開始し、新たな分けつ発生を抑制する。なお、落水しにくいほ場や異常還元が生じているほ場は、中干しに併せて溝切り等を行い、速やかな排水を図る。また、早期に茎数が確保されたほ場では、十分な用水と15cmの水深を維持できる条件下において、中干し前に深水処理を行い、弱勢分けつの発生を抑制する技術も選択できる。（令和8年稲作指導指針P.73～74）

#### （2）表層はく離・藻類等の防除

表層はく離やアオミドロ等の発生が多くなると地温や水温が低下し、生育が抑制されるので適切な対策を講ずる。対策としては、気温の低い早朝や雨の日の水の入れ替えを基本とする。移植栽培において、水管理で十分な効果が見られない場合は、中耕機による攪拌やモグトン粒剤（ACN剤）を散布する。

#### （3）直播栽培の中干し

本年は、出芽が早く、苗立数も多く確保できているほ場が多い。㎡当たり苗立数が100本を超えるようなほ場では、目標茎数を確保後、速やかに中干しに移行する。過繁茂や葉色が濃い場合はやや強めに行う。

#### (4) 余り苗の処分

余り苗で発生したいもち病は、周辺ほ場への強力な伝染源となるので、余り苗は土中に埋めるなどして直ちに処分する。

#### (5) 葉いもち防除

移植栽培での葉いもちの全般発生開始期は平年で7月5日であるが、全般発生開始期が早まると葉いもちや穂いもちが多くなる傾向がある。葉いもち防除のための水面施用剤は初期の発病を抑えることで葉いもちの発生量を少なくするので、側条施用剤や育苗箱施用剤を使用していない場合は、6月15日頃（6月12～18日）にオリゼメート粒剤（2kg/10a）を水面施用する。

直播栽培では移植栽培に比べて葉いもちの全般発生開始期が遅れる傾向があるため、葉いもちに効果のある種子塗沫剤を処理していない場合や、播種時に側条施用剤等を使用していない場合は、6月23日頃（6月20～25日）にオリゼメート粒剤（2kg/10a）を水面施用する。（令和8年度版秋田県農作物病害虫・雑草防除基準（以下、防除基準）p. 24～27, p. 43～44参照）

#### (6) 初期害虫の防除

移植日の遅いほ場や直播栽培では生育量が小さいため、イネヒメハモグリバエ（イネミギワバエ）、イネミズゾウムシ等の初期害虫による食害がイネの生育を抑制することがある。害虫の発生状況をよく観察し、必要に応じて防除する。（防除基準p. 32～36, 45～46参照）

#### (7) ばか苗病の対策

病害虫防除所が実施した育苗期巡回調査（5月2～3半旬）におけるばか苗病の発病箱率はやや高く、発病地点率は高かった。そのため、採種ほ周辺ほ場では、ばか苗病を発見したら直ちに株ごと土中に埋めて処分する。また、発病株の処分は遅くとも6月末までに終える。

#### (8) 斑点米カメムシ類の増殖を抑える雑草管理

主要加害種であるアサジカスミカメは、水田内のホタルイ等のカヤツリグサ科雑草やノビエの穂に産卵し増殖するので、下記（9）を参照し、水田内の除草に努める。

また、斑点米カメムシ類は農道・畦畔などのイネ科雑草でも増殖する。そのため、農道・畦畔や法面、休耕田等の雑草地は、地域でまとまって一斉に除草し、密度低下を図る。（防除基準p. 39～41参照）

### (9) 中・後期除草剤の適正使用

本年は雑草の生育も早いため、発生量が多い場合（一発剤の処理時期が遅れた場合や後発生が見られる場合）は、雑草の発生草種や生育程度を観察して、それぞれに除草効果の高い中・後期剤を選択する。また、雑草が殺草限界葉齢（除草剤が雑草を枯らすことができる雑草の最大葉齢）に達する前に散布する。用水確保が難しいほ場では茎葉散布剤の使用など、ほ場条件に合わせて防除する。除草剤の詳細については、**移植栽培**：防除基準p. 326～330、**直播栽培**：防除基準p. 333～335, p. 342～343を参照。

### (10) 農薬の飛散・流出防止の徹底

農薬を散布する場合は、周辺作物への飛散防止対策を徹底する。

また、除草剤や水面施用剤の散布後7日間は落水、かけ流しをしない。

### (11) 農作業安全対策の徹底

次の注意事項を守り、十分な安全対策を講ずる。また、これから気温が高くなる時期を迎えるため、こまめな水分補給や休憩を取るなど、農作業中の熱中症対策を行う。

- ①体調管理を万全にし、心身とも健康な状態で作業を実施する。
- ②作業は計画的に実施し、長時間や夜間の作業は避ける。
- ③運行する道路やほ場の危険箇所を確認する。
- ④点検・修理はエンジンを停止して行う。
- ⑤機械の点検・整備を徹底する。
- ⑥軽トラック、トラクタ運転時のシートベルトの着用を徹底する。
- ⑦日中の気温の高い時間帯を避けて作業する。
- ⑧帽子や送風機、スポットクーラー等の熱中症予防グッズを活用する。
- ⑨単独作業は避け、声かけ等により体調に異常がないか確認しながら作業を行う。
- ⑩農作業中を含め、クマ対策を徹底してください。

・「クマダス(<https://kumadas.net/>)」で出没をチェックし、クマとの遭遇を避けてください。

・作業中はクマ避けの鈴など音のでるものを常に携帯してください。

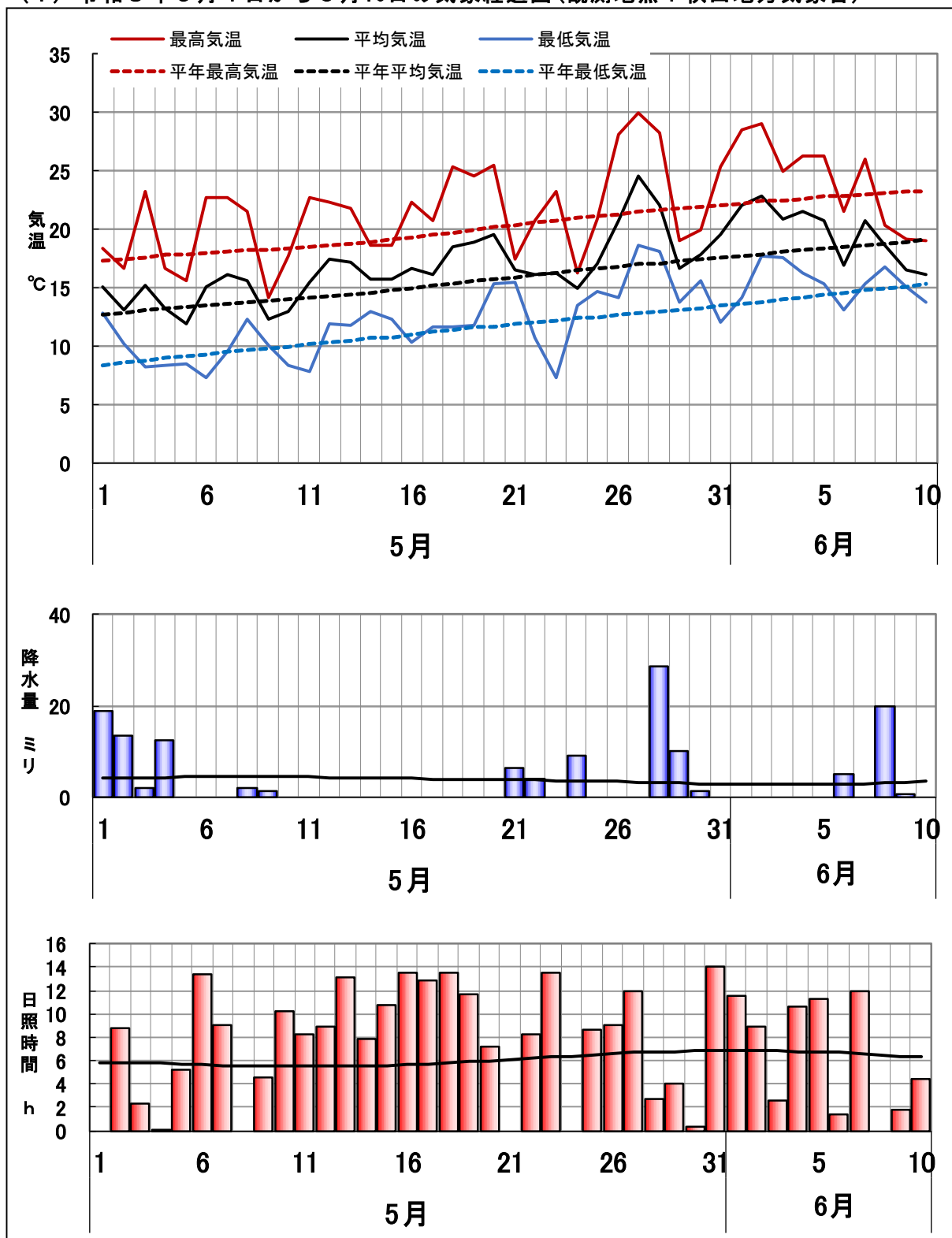
【時期別・主要作業別指導事項】

月旬	作業の種類	主な指導事項
6月中旬 ～ 6月下旬	水管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 浅水管理の徹底により分けつの確保に努める。</li> <li>○ かん水は早朝に行い、短時間で終わるようにする。</li> <li>○ 目標茎数を確保したら、中干しで分けつを抑制する。</li> <li>○ 落水しにくいほ場や異常還元ほ場では、中干しに併せて溝切り等を行い、排水を図る。</li> </ul>
	表層剥離・藻類等の防除	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 水の入れ替えで対応する。</li> <li>○ 移植栽培では必要に応じて中耕機による攪拌（かくはん）やモグトン粒剤（ACN剤）を散布する。</li> </ul>
	直播栽培の中干し	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 目標茎数を確保したほ場では、速やかに中干しに移行する。過繁茂や葉色が濃い場合はやや強めに行う。</li> </ul>
	余り苗の処分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 余り苗にいもち病が発生すると強力な伝染源となるので、余り苗は、土中へ埋めるなどして直ちに処分する。</li> </ul>
	葉いもち防除	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 移植栽培で側条施用剤や育苗箱施用剤を使用していない場合は、6月15日頃（6月12～18日）にオリゼメート粒剤を散布する。</li> <li>○ 直播栽培では、播種前や播種時に防除剤を使用していない場合は、6月23日頃（6月20～25日）にオリゼメート粒剤を散布する。</li> </ul>
	初期害虫の防除	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 害虫の発生状況をよく観察し、必要に応じて防除する。</li> </ul>
	ばか苗病の対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 採種ほ周辺ほ場では、ばか苗病を発見したら直ちに株ごと抜き取って土中に埋めて処分する。</li> <li>○ 発病株の処分は遅くとも6月末までに終わる。</li> </ul>
	畦畔等雑草の管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 斑点米カメムシ類の増殖を抑える（密度低下）ため、草刈りなどの雑草管理は地域でまとまって行う。</li> </ul>
	中・後期除草剤の適正使用	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ほ場内での発生草種や生育程度をよく観察する。</li> <li>○ 雑草が殺草限界葉齢（除草剤が雑草を枯らすことができる雑草の最大葉齢）に達する前に除草剤を散布する。</li> <li>○ ほ場条件に合わせて剤を選択する。</li> <li>○ 防除基準を参照して、適正な使用とする。</li> </ul>
農薬飛散・流出防止	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 農薬を散布する場合は、周辺作物への飛散防止対策を徹底する。また、除草剤や水面施用剤の散布後7日間は落水、かけ流しをしない。</li> </ul>	

# 資 料 編

# 1 気象経過

(1) 令和8年5月1日から6月10日の気象経過図(観測地点:秋田地方気象台)



(2) 旬別気象状況 (秋田市)

(秋田地方気象台HPより)

項目 \ 時期	5月上旬		5月中旬		5月下旬		5月 計	
	本年	平年比較	本年	平年比較	本年	平年比較	本年	平年比較
平均気温(℃)	14.1	+0.5	17.2	+2.4	18.4	+1.5	16.6	+1.4
降水量(mm)	50.5	113 %	0.0	0 %	59.5	155 %	110.0	88 %
日照時間(h)	53.6	93 %	107.7	194 %	72.4	101 %	233.7	126 %

項目 \ 時期	6月上旬	
	本年	平年比較
平均気温(℃)	19.7	+1.3
降水量(mm)	25.5	108 %
日照時間(h)	64.6	94 %

(3) 各地域の気象経過

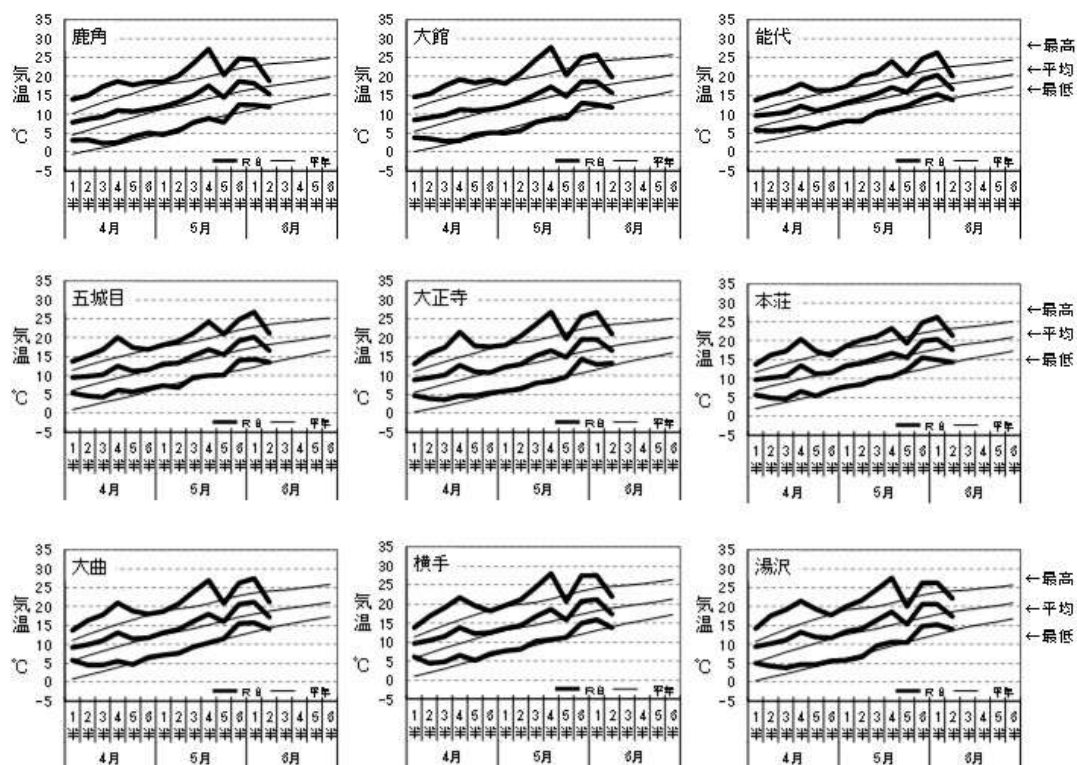
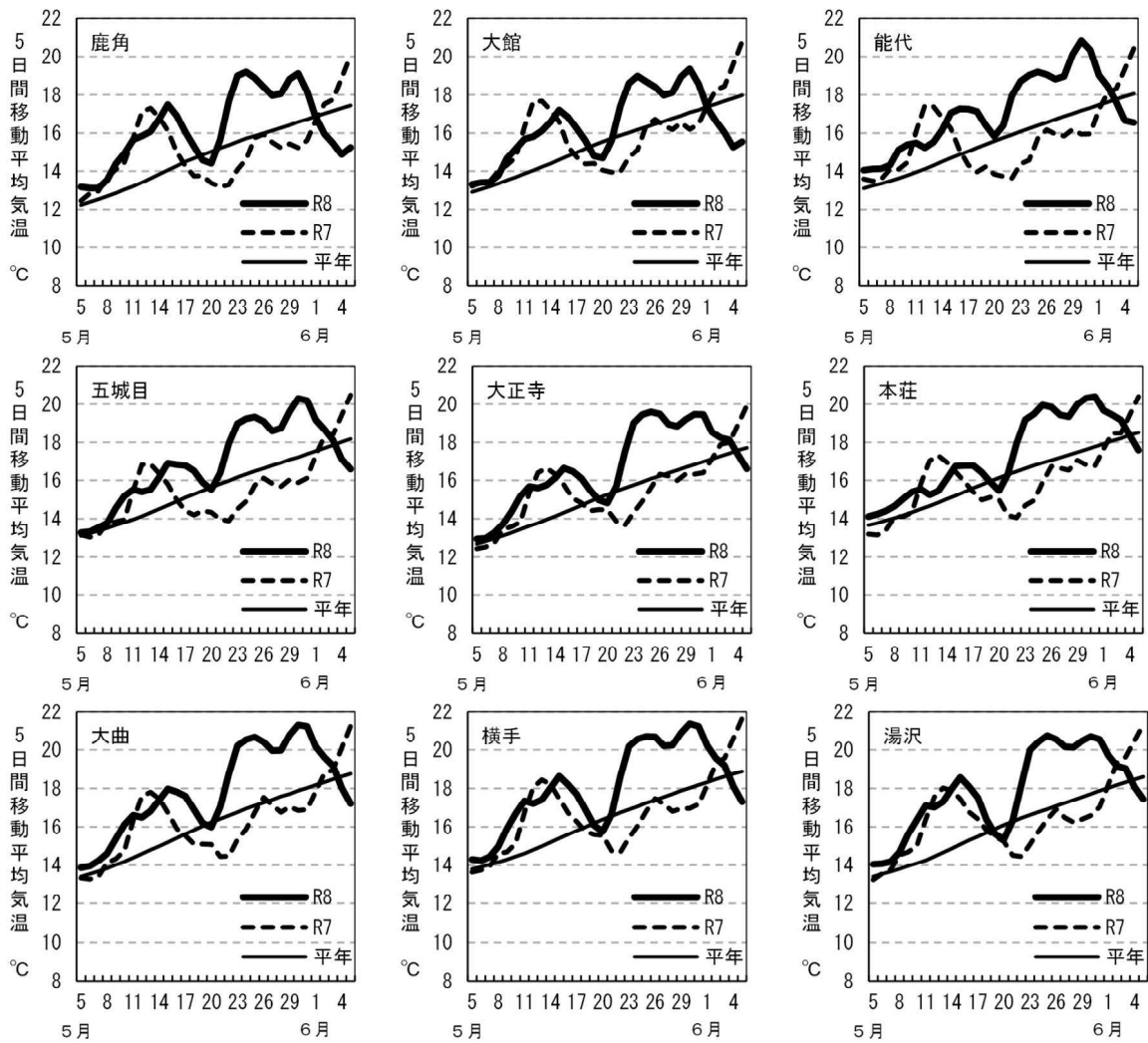


図-1 各地域の気温の推移(半旬別、アメダス観測地点別、6月10日現在)



図ー2 各地域の5日間移動平均気温の推移(アメダス観測地点別、5月5日～6月5日まで)

## 2 農作業進捗調査結果 (各地域振興局調査)

区分	地域	始期 (5%)			盛期 (50%)			終期 (95%)		
		本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年
田植作業	県北	5/13	5/16	5/14	5/20	5/24	5/22	5/28	5/31	5/29
	中央	5/11	5/10	5/9	5/19	5/21	5/19	5/30	6/1	5/30
	県南	5/16	5/17	5/17	5/23	5/25	5/24	5/31	6/1	5/31
	全県	5/12	5/12	5/12	5/22	5/24	5/23	5/30	6/1	5/31

### 3 水稻定点調査結果（各地域振興局6月10日調査）

表－1 定点調査結果（品種：あきたこまち）

表－1 定点調査結果（品種：あきたこまち）

地域 振興局	調査点数	草丈			㎡当たり茎数			葉数		
		本年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (本)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (葉)	前年差 (葉)	平年差 (葉)
鹿角	5	24.9	112	97	114	118	74	6.3	0.6	0.1
北秋田	9	25.7	110	96	193	122	110	6.6	0.6	0.2
山本	9	27.3	116	104	152	148	108	6.6	0.8	0.3
秋田	10	26.5	119	104	202	182	136	6.9	0.7	0.4
由利	2	25.8	97	109	143	114	121	6.0	0.7	0.5
仙北	10	24.5	107	99	137	138	102	6.1	0.6	0.2
平鹿	11	21.9	100	95	91	107	92	5.7	0.5	0.2
雄勝	8	24.6	106	99	145	125	124	6.1	0.7	0.2
<b>全県平均</b>	<b>64</b>	<b>25.0</b>	<b>109</b>	<b>99</b>	<b>149</b>	<b>137</b>	<b>110</b>	<b>6.3</b>	<b>0.7</b>	<b>0.3</b>
6月10日の 理想生育量		目標	下限	上限	目標	下限	上限	目標	下限	上限
	県北	24	23	26	159	140	179	6.2	5.9	6.4
	中央	25	23	27	174	145	204	6.3	6.0	6.6
	県南	24	23	25	125	113	138	5.8	5.6	6.0

表－2 定点調査結果（品種：ひとめぼれ）

表－2 定点調査結果（品種：ひとめぼれ）

地域 振興局	調査点数	草丈			㎡当たり茎数			葉数		
		本年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (本)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (葉)	前年差 (葉)	平年差 (葉)
秋田	2	21.6	92	83	278	156	124	6.1	-0.2	-0.2
由利	6	28.9	112	102	197	122	87	6.8	0.8	0.1
中央地区平均	8	27.1	107	98	217	132	96	6.6	0.5	0.1

## 4 関連成績

### (1) 気象感応試験（あきたこまち）

#### 1) 生育概況

標植では、草丈が28.6cm（平年比108%）で平年より長く、㎡当たり茎数は301本（同134%）でかなり多く、葉数は7.5葉（平年差+0.5葉）で多かった（表－3 標植）。晩植においても、草丈は24.9cm（平年比107%）で長く、㎡当たり茎数は165本（同134%）でかなり多く、葉数は6.3葉（平年差+0.4葉）で多かった（表－3 晩植）。両区とも生育が旺盛かつ前進している。

表－3 気象感応試験の生育状況（6月10日調査）

試験区	移植日	草 丈					㎡当たり茎数					葉 数				
		R8 cm	R7 cm	R7比 %	平年 cm	平年比 %	R8 本	R7 本	R7比 %	平年 本	平年比 %	R8 葉	R7 葉	R7差 葉	平年 葉	平年差 葉
標植	5月15日	28.6	24.9	115	26.5	108	301	141	214	224	134	7.5	6.6	+0.9	7.0	+0.5
晩植	5月25日	24.9	23.5	106	23.2	107	165	125	131	123	134	6.3	5.7	+0.6	6.0	+0.4

注) 平年値は、標植はH12～R7、晩植はH29～R7の平均。

移植時の葉数は、標植は平年と同じ3.4葉、晩植では平年よりやや多い3.8葉だった。標植と晩植ともに5葉の出葉が平年より早く、6葉以降も早く出葉している（表－4）。

表－4 出葉状況（6月10日現在）

試験区	年次	出葉期									
		5葉	6葉	7葉	8葉	9葉	10葉	11葉	12葉	13葉	
標植 (5月15日移植 基準)	R8	5/21	5/27	6/2	6/7						
	R7	5/25	6/1	6/7	6/12	6/17	6/23	6/30	7/7	7/15	
	平年	5/24	5/29	6/5	6/11	6/16	6/22	7/1	7/11	7/17	
	平年差	-3	-2	-3	-4						
晩植 (5月25日移植 基準)	R8	5/29	6/2	6/8							
	R7	6/1	6/7	6/12	6/17	6/21	6/25	7/3	7/11	7/18	
	平年	5/31	6/6	6/11	6/16	6/21	6/27	7/4	7/13	7/21	
	平年差	-2	-4	-3							

注1) 標植の平年値は、H12～R7までの平均。晩植の平年値は、H29～R7までの平均。

注2) 移植時葉数の平年値は標植は3.4葉、晩植は3.6葉。本年は標植は3.4葉、晩植は3.8葉。

## 2) 分けつの発生状況 (6月10日調査)

標植の調査株における分けつの初発生は平年並の5月29日、次節位別の発生では、1次2節位分けつが10個体当たり3本(平年3本)、3節位の分けつは8本(同7本)と平年並に発生し、4節、5節も平年並に発生している(表-5, 図-3 標植)。

晩植の調査株では、分けつの初発生は6月4日で平年より3日遅かったものの、その後の発生は多く、4節まで平年並に発生している(表-5, 図-3 晩植)。

表-5 次節位別分けつの発生本数(6月10日現在)

試験区	1次分けつ						2次分けつ		分けつ合計
	1節	2節	3節	4節	5節	6節	2節	3節	
標植	1	3	8	10	10		1		33
(平年)	0	3	7	10	10	10	2	9	73
晩植	0	1	8	9					18
(平年)	1	2	7	10	10	10	2	7	71

注1) 四捨五入の関係により 各分けつの合計と”分けつ合計”は必ずしも一致しない。

注2) 平年; 標植はH13~R7までの最終発生数の平均、晩植はH29~R7までの最終発生数の平均

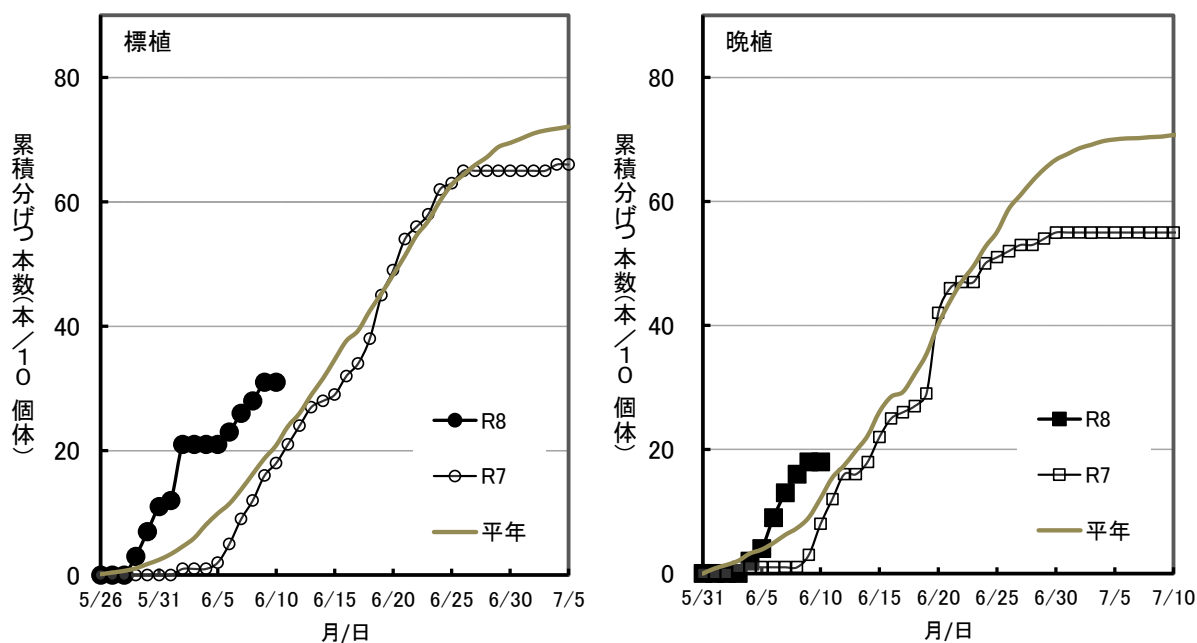


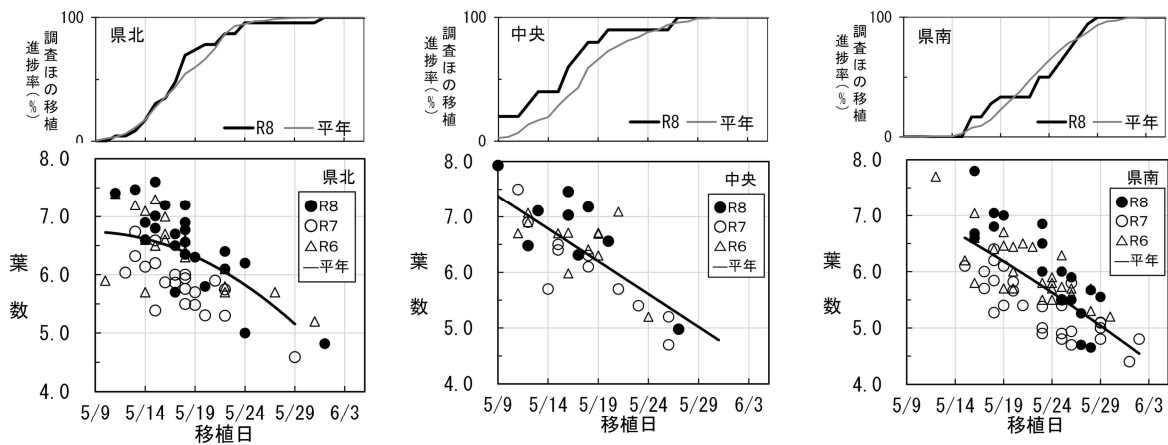
図-3 分けつの発生状況(6月10日現在)

### 3) 定点（あきたこまち）の生育状況

調査対象ほ場の移植の進捗は、県北と県南では平年並、中央では平年より早く経過した。各地域とも低温だった5月22～24日は、移植の進捗率が停滞しており、移植を見合わせたと推定される。

6月10日現在の葉数は、全県平均の平年差で+0.3葉であり、平年より多く、特に中央では平年差+0.5葉と多かった。

本年の育苗期間は高温多照で経過したことから苗の生育が進み、移植後も高温であったことから、本田での生育は平年より前進している。



図－4 調査ほ場の移植進捗率(上段)および移植日と葉数の関係(下段)

注) 6月10日定点調査、平年はH26～R7の平均を近似線で平準化して表示

調査ほ場の葉数と茎数増加率の関係では、県北は6.0葉～7.3葉程度のほ場で茎数増加率の低いほ場が見られた。中央では7.0葉以上のほ場で茎数増加率が平年水準より低いほ場が3地点あった以外は、平年並～以上の増加率だった。県南は、移植時期が遅いため6.0葉未満のほ場が多いものの、6葉以上のほ場では平年並の増加率と推定された。

過去2年に比べ、本年の茎数は概ね順調に増加していると推定されるが、県北で茎数増加率の低いほ場がみられ、ほ場間差が大きくなっている。分けつの発生が遅れているほ場は、適切な水管理を徹底する。

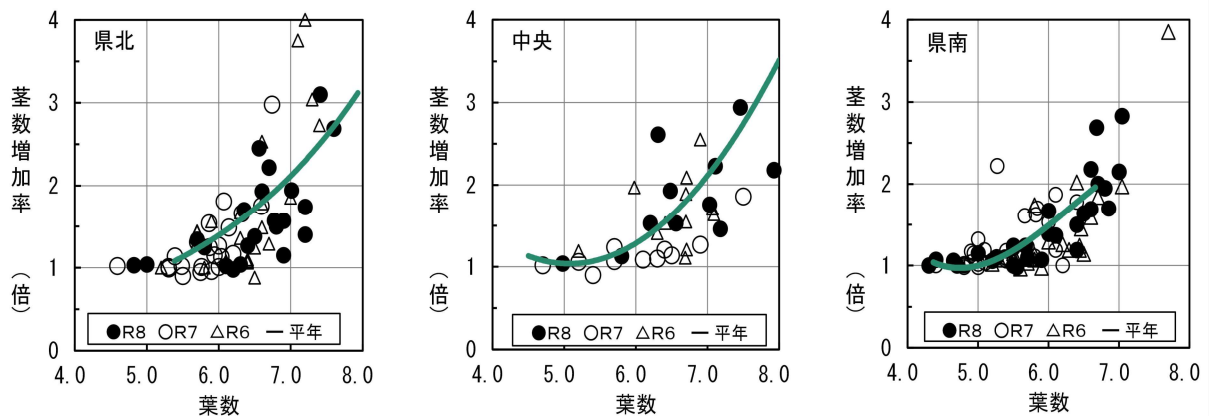


図-5 葉数と茎数増加率の関係

注1) 茎数増加率 = 茎数 ÷ 植え付け本数

注2) 6月10日定点調査、平年はH26～R7の平均を近似線で平準化して表示

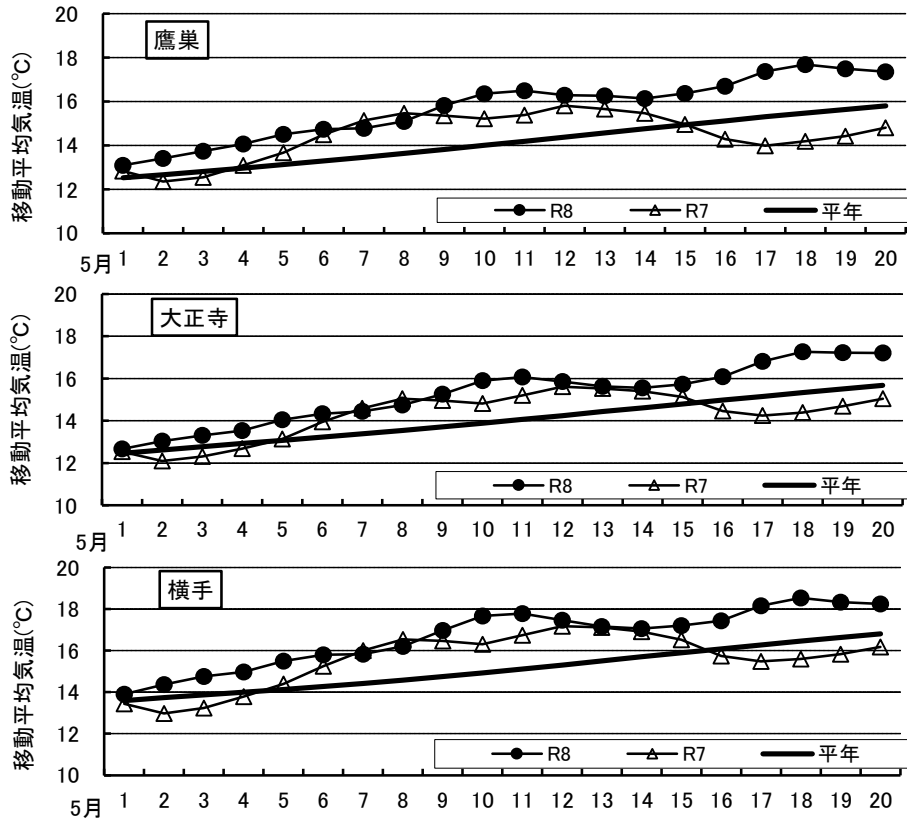
注3) 中苗の場合、主茎第6葉伸展中(5.1～6.0葉)に3号分けつ(以下3号)、主茎第7葉伸展中(6.1～7.0葉)に4号分けつ(以下4号)が発生。植え込み本数に対して3号のみが全主茎に発生した場合、茎数増加率は2、さらに4号が完全に発生した場合の茎数増加率は3になる。

## (2) 直播作況試験

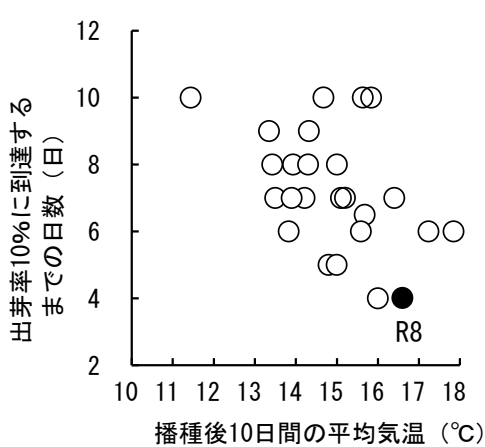
### 1) 直播水稻の出芽・苗立

農業試験場の㎡当たり播種粒数は158粒（平年136粒）であった。㎡当たり苗立数は138本で、苗立率は87.5%と平年より高く、出芽・苗立は良好であった。これは本年の播種後10日間の移動平均気温は平年よりも高く経過したことに加え、5月中旬の降雨も少なく、出芽が早く、出芽数も確保できたためと推察される。（図－7）

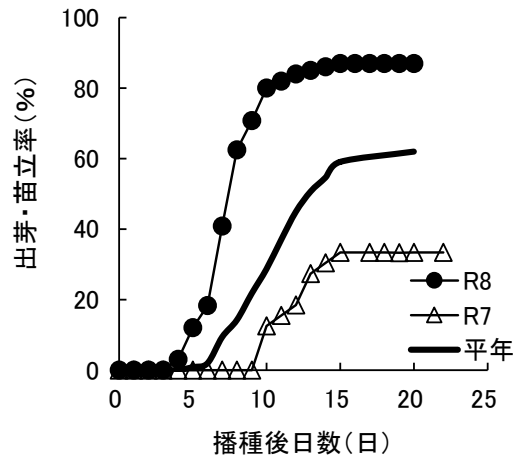
播種後、出芽始期（出芽率10%に達した日）までは4日（平年差－4日）、播種から出芽揃期（苗立数の90%が出芽した日）までは10日（同－4日）と、出芽始期、出芽揃期ともに平年よりも早くなった。（図－8, 9）



図－7 播種翌日から10日間の移動平均気温（アメダスデータ）



図－8 播種後10日間の平均気温と出芽率の関係(H14～R8)



図－9 出芽・苗立率の推移

注）平年値：過去10年間（H27～R7）の平均値

## 2) 直播水稻の生育概況（6月10日現在）

6月10日調査の生育状況は、草丈19.8cm（平年比115%）、m<sup>2</sup>当たり茎数は285本（同257%）、葉数は4.4葉（同+0.4葉）であった。（表－6）

本年の農試直播作況ほ場における生育は、出芽時期が早まったこと、苗立後も概ね高温が続いたことにより、葉数からみた生育は早まった。分けつにおいても、生育の早まりと低位分けつの発生が旺盛であることから、平年より多くなった。

表－6 農試直播作況ほ場における出芽率と苗立率および6月10日の生育状況

播種 月日 (月/日)	出芽率(%)		苗立率 (%)	m <sup>2</sup> 当たり苗立数		草丈		m <sup>2</sup> 当たり茎数		葉数	
	播種 10日後	播種 20日後		本年 (本)	平年比 (%)	本年 (cm)	平年比 (%)	本年 (本)	平年比 (%)	本年 (葉)	平年差 (葉)
	5/11	77		87.5	87.5	138	170	19.8	115	285	257

注1) 品種：「あきたこまち」、播種方式：湛水土中条播（詳細は作況ニュース2号参照）

注2) 平年比、差を算出する際に用いた平年値は過去10年（H28～R7）の平均値

注3) 出芽率・苗立率は調査時点の出芽数および苗立数と播種粒数の割合

## 各地域における技術情報等のお知らせ

各地域における技術情報等についての問い合わせは、最寄りの地域振興局農林部農業振興普及課に電話またはFAXでお願いします。

各地域振興局	電話番号	FAX番号
鹿角 地域振興局農林部農業振興普及課	0186-23-3683	0186-23-7069
北秋田 地域振興局農林部農業振興普及課	0186-62-1835	0186-63-0705
山本 地域振興局農林部農業振興普及課	0185-52-1241	0185-54-8001
秋田 地域振興局農林部農業振興普及課	018-860-3410	018-860-3363
由利 地域振興局農林部農業振興普及課	0184-22-8354	0184-22-6974
仙北 地域振興局農林部農業振興普及課	0187-63-6110	0187-63-6104
平鹿 地域振興局農林部農業振興普及課	0182-32-1805	0182-33-2352
雄勝 地域振興局農林部農業振興普及課	0183-73-5114	0183-72-6897

### OSNS（ソーシャルネットワーキングサービス）LINEで情報発信を行っています

#### 秋田県稲作技術情報

#### 「秋田の米ぢから」



水稻栽培に関する情報をリアルタイムで発信しています。

<主な配信内容>

- ・秋田県内の水稻の生育状況
- ・水稻および大豆の技術情報
- ・異常気象対策
- ・その他、秋田米に関する情報



こちらのQRコードから登録できます

記事についてのお問い合わせは

秋田県農業試験場

作物部

生産環境部

秋田県病虫害防除所

秋田地方气象台

東北農政局秋田県拠点

秋田県農林水産部水田総合利用課（農産・複合推進チーム）

園芸振興課（調整・普及チーム）

TEL 018-881-3330

内線(422・423・424)

内線(306・310)

TEL 018-881-3660

TEL 018-864-3955

TEL 018-895-7303

TEL 018-860-1786

TEL 018-860-1801

【次回の発行日は6月30日（火）の予定です】